



VOL.18  
フォーカス  
Focus  
Focus on hot human.

3年連続で箱根駅伝に出場

## 「感謝」で走り抜けた花の2区、 日の丸目指して、次のステージへ

太田黒<sup>すぐる</sup>卓<sup>すぐる</sup>さん(上武大学4年=植木)

**ラ**ンナーたちの夢の舞台。第95回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)が1月2、3日に東京都から神奈川県箱根を往復する10区間217.1<sup>キロ</sup>で開かれ、太田黒卓さん(上武大4年=植木)が3年連続で出場。エース区間の2区(23.1<sup>キロ</sup>)を走り抜けた。

太田黒選手は昨年の箱根駅伝後、主将に就任。最後の年にかける思いは強かった。毎月700<sup>キロ</sup>を目標にし、8月には950<sup>キロ</sup>と走り込みを徹底。練習に取り組む姿勢でチームを引っ張ってきた。「以前は箱根メンバーに選ばれるだけで満足する選手もいたが、全員でその先を見据えてきた。飛び抜けたエースはいないが、断然層が厚くなった」と強くなるために底上げを図った。

上武大は予選会からのスタート。予選会は昨年10月に開かれ、各大学10人のハーフマラソンの合計タイムで競われる。本選に出場できるのは49校のうち11校。15<sup>キロ</sup>地点を通過する太田黒選手の耳に「今、14位!」と情報が入る。直前まで座骨神経痛に苦しみ、体調は万全ではなかったが、箱根への強い思いと走りこんだ体を信じ、ギアをさらに上げた。457人のランナーが走る中、チームトップとなる36位。太田黒選手の活躍で上武大は11位となり、11年連続11回目の本選出場をつかみ取った。

外国人選手や強豪校のエースが集う、箱根駅伝の花の2区を走るのは自身2度目。20位でたすきを受け取り、70分19秒の区間18位でたすきをつないだ。「前と離れていたのですが、前半は自分のリズムで行き、後半ペースを上げたが、前半に落ち着き過ぎてしまった。練習の成果は出せたが、エースとしてチームを鼓舞する走りができなかった」。タイムは昨年より21秒縮めたが、悔しさをにじませた。

太田黒選手は大学を卒業後、八千代工業(埼玉県)に就職し、実業団ランナーとしての道を歩む。「怪我した私を支えてくれた人たちや苦楽をともにした仲間、いつも応援してくれる地元の人など、皆さんがいなかったら、2区のスタートラインには立てなかった。感謝の気持ちでいっぱい。走るときには一人かもしれないが、頼ることや仲間の大切さを知った4年間だった。トラックで結果を出して、マラソンに挑戦し、将来オリンピックで日の丸を背負って走れるようなランナーになりたい」。太田黒選手は感謝の気持ちを胸に、次のステージで挑戦を続ける。